

アメリカが、2次大戦退役軍人の露戦勝パレードへの出席を禁止

<https://www.rt.com/russia/575987-victory-day-veterans-threat/>

RT

May 9, 2023

アメリカの退役軍人たちが、もしロシアに旅行する気なら、パスポートを発行しないと脅されたようだ——露大使



「不滅の連隊」の行進、米ワシントンのロシア大使館にて、5月8日

米政府は、モスクワで行われる戦勝記念式典パレードに出席しようとした、数人の二次大戦退役軍人を脅して阻止した、とワシントンへのロシア大使 Anatoly Antonov は、月曜日、明かにした。

アメリカ政府は、これで2年引き続いて、かつて戦友だったロシア人と再会しようとする米退役軍人を阻止し、もしロシアへ飛ぶなら、彼らのパスポートをキャンセルすると脅しさえした、とアントノフは公表した。

「我々は、ロシアが、共通の勝利に貢献したことを誇りに思っていることを、アメリカの兵士たちに知ってもらいたいのだ。アメリカが敵意ある政策を取っても、〈大祖国戦争〉のときの戦友精神が覆ることはないだろう。我々は、こうした英雄たちについての真実を、擁護する義務があると思っている」と、大使は言った。

アントノフはまた、アメリカで起こっているロシア憎悪を指摘し、これは政府が焚き付けているのだと言った。彼はアメリカのメディアが、ソ連邦に少しでも手柄を与えるのを避けるために、ナチス敗北を記念する行事を、完全に無視しているのだと非難した。

「厚かましい試みが、2次大戦についての事実を曲げようとしている。ファシズムの敗北には、決定的に〈赤軍〉が貢献した事実が無視され、ソ連邦が勝者のリストから除外されてしまったのだ。同時に、アメリカとイギリスの役割が、不当に宣伝されている」と大使は言った。

彼はまた、ウクライナのゼレンスキー大統領がヨーロッパ中で名誉を称えられるという「**歴史の辱めと常識の笑いの種**」を指摘し、キエフ政府が、ステファン・バンデラや彼の運動のような、ナチ協力者たちを賛美しているにもかかわらず、それが起こっていると指摘した。

「我々はアメリカの政府や権威が、考え方を改め、ナチスを甘やかすことをやめるよう求める」と、アントノフは言った。「我々は倒れた英雄たちに対して正直でなければならない。歴史の歪曲をやめよ。ネオナチ精神とロシア憎悪の奨励は受け入れられない。」

大使はまた、週末近くに、未知の聖遺物破壊者が、ワシントンの Rock Creek 墓地の、ロシア正教の墓標を破壊したことに注意を促した。この地方の教区聖職者によれば、攻撃者は、神聖な礼拝堂を穢し、「上海とサンフランシスコの聖ヨハネ像」の顔を傷つけたのだという。

参考資料：「ウクライナは、ナチス敗退を記念する伝統的祝祭日を取りやめている」

<https://www.rt.com/russia/575967-ukraine-zelensky-victory-day-may8/>

「〈彼らはロシアへ行こうとする者を誰でも射殺する〉—ウクライナに奪われた町から」

<https://www.rt.com/russia/575840-liberated-city-soledar-photo-report/>

[訳者 Greatchain 注]

ここには我々が知っているべきことで、多くの人が知らないでいる重要な事実が指摘されている。それは第2次大戦末期の、D-Day とか「ノルマンディ上陸作戦」と言われ、映画では『史上最大の作戦』として知られるものが、狡く巧みな宣伝によって、もっぱら米軍が成し遂げたことになっている事実である。これはアントノフ・ロシア大使が言う通り、実はそのほとんどが、ロシア（当時のソ連）軍によるものだった。米軍は大勢がほぼ決してから、後から加わったにすぎないと言われる。

アメリカの悪辣で巧みな常套作戦については、「ニセ旗作戦」false-flag operation として、我々の多くが知るようになったが、この「ノルマンディ上陸作戦」の真相については、今も知らない人が多いと思う。これは我々が大きく騙されていたことの一つであり、アメリカとナチスの繋がりも指摘されている。次の記事を参照されたい：

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/170507.pdf>

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/170510.pdf>

我々地球人全体の平和への願いを、ことさら踏みにじろうとするアメリカに対する、このロシア大使の皮肉をこめた苦言は傾聴すべきである。米兵とロシア兵が、ナチスという共通の敵を通じて、戦友として戦った時期があったという事実も貴重である。米露ともに民衆は一つであり、その仲を裂いて戦わせようとしている、グローバリストだけが**通常の間人から浮いた、狂った犯罪者**である。このロシア大使のゼレンスキー批判も痛烈である。この2、3日、これについて真逆の記事を書いているメディアは、ぜひこれを読んでいただきたい。

ついでに、この記事のコメント欄から、いくつか紹介しておこう：

- おそらく彼らの生涯の最後の数年を、兵役体験者に否定するという悲劇。彼らは自由を護るために2次大戦で戦っていると思っていた。アメリカは恥を知れ！
- 自国民を脅し支配するのは、独裁のひとつの形ではないか？ シオニズムに導かれたUSラエルは、コントロールを失っている。
- アメリカは今、完全に満開のファシスト帝国だ。「自由の国」なんてものは今はない。確実にあるのは「脳なしの祖国」だ。
- ここでわかったことは、悪に支配された忘恩の国家の下で戦うな、ということ。
- シオニスト・メディアというスポンサーによるロシア憎悪。
- 自由の国アメリカ？ おっほっほ、こういう子供じみた振舞いから、これら動物たちが何だったのかがわかってくる。
- 本当に胸が悪くなる。バイデン政権は人類の恥だ。

(いずれもメディア関係者にとっては暴言であろう。深く陳謝申し上げる。)